

事務局：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）

TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578

E-mail jaeis-jimu@jaeis.org <http://jaeis.org/>

第8回全国大会報告

第8回全国大会実行委員長 鷹岡亮（山口大学）

1. はじめに

第8回全国大会を「情報科教育で育成すべき能力の再考」というテーマのもとで、6月27日、28日の2日間、山口大学吉田キャンパスにて開催させて頂きました。中国地区では初めての全国大会の開催であり、魅力的である北海道の翌年引き受け、かつ公共交通が整っていない山口における開催ということで実行委員会では心配をしたのですが、大河ドラマ「花燃ゆ」の後押しがあったからなのか、9社の企業さまからの展示・広告、文部科学省、経済産業省、総務省をはじめ6団体からのご後援、関係学会・研究会・協会・財団等9団体からのご協賛を頂き、皆さまからの後押しを頂きながら何とか2日間の大会運営をのりきることができました。ご支援・ご協力頂きました皆さまに深くお礼申し上げます。



第8回大会には、2日間で131名（正会員：94名、学生会員：13名、協賛会員：9名、非会員：15名）のご参加を頂きました。また、第1日目午後のプログラムを山口県の学校教員及び学生の研修会として開催させて頂いた取組みには36名（学校教員：24名、学生：12名）のご参加を頂きました。プログラムとしましては、基調講演1件、招待講演2件、トピック別トーク&ディスカッションで3分科会、パネルディスカッションにおける話題提供4件、口頭発表52件、ポスター・デモンストレーション発表12件（ポスター発表：7件、デモ発表：5件）のご登壇を頂きました。ご参加頂き、ご発表、そして熱くご議論頂きました皆さまに、この場をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

2. 大会の基本方針と特色

昨年、初等中等教育における教育課程の基準等の在り方が諮問され、本格的に10年を見越した次期学習指導要領の検討が始まり、今回の改訂では「何を教えるか？」だけでなく「どのように学ぶか？」そして学習の成果として「どのような力が身に付いたか？」といった観点からの検討がキーポイントになっています。さらに、新しい学びに対応

本号目次

報告：第8回全国大会報告	1	報告：九州四国中国支部総会・支部研究会	10
報告：第5回研究会	6	報告：近畿北陸支部総会・支部研究会	10
報告：学会総会・活動	7	行事予定	11
報告：東海中国支部総会・支部研究会報告	7	事務局からのお知らせ	12
報告：関東東北支部大会・第4回研究会	8	速報：第9回全国大会	12

第8回全国大会報告

した教材や評価手法の開発や普及を図っていくための支援方法の在り方も重要視されています。このような動向のなかで、ICTを活用した学習・指導方法、学習評価をも推進できる情報科教育は今回の改訂においてリーダーシップをとれる教科であり、新しい時代に必要な教育内容とともに学習・指導方法、学習評価の検討を急ピッチで進めることが必要ではないかと考えました。そこで、次期学習指導要領の検討がはじまったこの時期に、維新の地「山口」において、新しい時代における情報科教育の在り方を再考する契機として「情報科教育で育成すべき能力の再考」というテーマのもとで大会を開催させて頂くことになりました。同時に、第7回大会の方針を継承し、地域において情報科教育を推進するための考え方や方策について、参加者に情報提供を行うとともに、会員間及び連携可能な様々なステークホルダーとの意見交換が図れる大会運営を行うことを目指しました。

具体的には、次期学習指導要領へのキックオフとして、意見交換が可能な多くの場を提供し、次期学習指導要領に向けて検討（解決）すべき課題を抽出・共有できるプログラム構成を行ないました。1日目の基調講演・招待講演を聞いて頂いた後に、情報科教育のコンピテンシー、地域における情報モラル教育の今後の展開、情報科教育の授業の在り方についてご議論頂き、そこでの課題意識等を懇親会や維新の志士たちも癒されつつ密議を繰り返した湯田温泉にゆったりとつかって頂きながら、今後の情報科教育の方向性について様々な方々と熟議して頂くよう計画しました。そして、2日目の発表やパネルディスカッションを通して、これから検討（解決）すべき課題を整理して頂き、参加者の皆さまで共有ができればと考えた次第です。

これらの想いを講演論文集の表紙に反映して頂くべく、本学教育学部の熊谷武洋先生のご指導のもとで教育学研究科の蔡雪迪さんに表紙のデザインを行なってもらいました。テーマは「情報の典型イメージ」です。地球、人間、動物（恐竜）をモチーフにして、10進数である「西暦2015」の数字をそれぞれ2進数、8進数、16進数で表記し、それらを立体ドット描画処理によって作画することで、「情報」の一般性や多様性を表現して「情報」が生活とは切り離せない身近なものになっているというイメージを出しています。



3. 大会の様子

初日（1日目）は、4つの口頭セッションからスタートとなりました。総会、開催校を代表して古賀 和利 理事副学長にご挨拶頂いた後、岡本敏雄会長に「高度情報化時代の教育の様相～ITで10年後の学校教育はどう変わるか～」と題して基調講演を行って頂きました。情報科教育、情報教育、教育の情報化が三位一体の関係ではあるが混同されていること、新たな時代において情報科が果たす役割は極めて大きく、教科「情報」の立ち位置を日本人にとっての「新しい学力」の中身との関係に基づいて明確にすることは重要で、本学会は、今一度、諸外国の状況を踏まえながら教科「情報」のコアを議論し、コアカリキュラムを開発・提案することが求められていると強くご指摘して頂き、大会期間中の論点をご提供頂きました。



基調講演に引き続き、2つの招待講演が行われました。はじめに、文部科学省の新津勝二情報教育振興室長さまから「教育の情報化の動向」という題目でご講演頂きました。ご講演では、ICTを活用した学びの推進に関わる政府方針から、教育の情報化の現状、さらに文部科学省の取り組みについてお話頂きました。特に、学習指導要領の改訂、高大接続改革の部分为重点的にご説明頂きました。情報科に関しては、指導内容の充実と新テストへの検討が同時に行われているという状況を踏まえて、ハード面、ソフト面の課題について早急に克服し、また情報専任教員の養成・採用・研修についても力をいれていくことが必要であるという強いメッセージを頂きました。新津室長におかれましては、非常にお忙しい状況にも関わらず、2日目の口頭発表やパネルディスカッションまでご参加頂きました。



続いて、国立教育政策研究所の白水始総括研究官さまから「21世紀に求められる資質・能力と情報科教育」というタイトルでご講演頂きました。「今後、児童生徒の情報活用能力のどのあたりを伸ばしていくべき

第8回全国大会報告

直面する課題に豊富な情報を使って深く考え未来を創る一員になっていく授業であることと定義され、「これらの授業において情報に関わる能力と情報科教育が貢献できるのではないかと」と参加者に問いが投げかけられました。その後、Open informational worldのなかで情報活用能力を超えて重要となるだろう情報をまとめる力（情報統合能力）について、Fast thinking, Slow thinking, トランスリテラシー等のキーワードを出して頂きながら、情報活用能力の整理・分析フェーズにおける問題点や複数の資料の結び付けなど多種多様で断片的な情報を統合して知識を作り上げていくリテラシーを獲得することの重要性をご説明頂きました。次に、次期学習指導要領のキーとなるアクティブラーニングとICTについて、途中、中学2年理科の授業デザインの作りかえを参加者が近くの方々とアイデアを交換する活動を取り入れて頂きながら「前向き授業（＝アクティブラーニング）」とICTを活用した変容的評価や学びの変遷をICTで可視化することの意義、児童生徒が主体的に社会とつながりながら学んでいくためには学び方に自覚的になることの重要性や利用するICTの使いやすさやカスタマイズを探究できる小中高の教科構造の必要性など唆に富んだお話を頂きました。最後に、Slow ThinkingするためのツールとしてICTを活用するなど各教科のすべての土台として情報の方法知を学び（横軸）、科学的な理解や社会参画・態度などの内容知を充実させていく（縦軸）逆L字型モデルを示され、特に、情報科教育（内部構造、セキュリティ等）の中身を問題解決と結び付けて提供し、「賢いユーザかつユーザ中心の技術者的な中間層」を厚く育む教科体系を構想できればよいのではないかとのご提案を頂きました。講演終了後の質疑では、ICTを意識せず活用できる教員、情報科教育を対象にした授業デザイン研究、前向き授業における教える側のポイントなど時間がオーバーするほどご質問を頂きましたが、ひとつ一つ丁寧に回答やご唆を頂きました。



企業展示は初日から2日間、9社10ブースのご出展を頂きました。情報科の教科書・副読本・専門書、情報科関連の学習コンテンツ（e-Learning教材含む）、学校教育のICT教材、授業支援ソフト、教務・校務支援ソフト、タイプ練習ソフト、アプリ配信システム、電子黒板、レスポンスシステム、文教育デジタルビデオカメラ等、書籍・製品の展示やデモンストレーション、提供を行って頂きました。招待講演の終了後、同会場では、展示・広告企業さまから簡単なプレゼンテーションを行って頂きました。

初日の最後のセッションは、第3回全国大会で実施されていた特別企画（パラレルセッション）をトピック別トーク&ディスカッション（分科会）として再現させて頂きました。分科会は、A会場「情報科教育で育成するコンピテンシーと達成度テスト（コーディネータ: 松田 稔樹 先生, 萩生田 伸子 先生）」、B会場

「地域において情報科教育・教育の情報化を推進するための方策～情報モラル教育の今後の展開を中心にして～（コーディネータ: 村田 育也 先生, 池田 勇 先生）」、F会場「情報科教育の授業の在り方を考える～情報科教育の内容や担当者の課題意識を中心にして～（コーディネータ: 山下 裕司 先生, 藤本 直樹 先生, 畑野 新司 先生, 阿濱 茂樹 先生, 佐藤 万寿美 先生）」の3つのテーマで構成しました。A会場では、情報科教育においてどのような資質・能力を育成すべきなのか？その資質・能力の中身を明らかにすること、そしてどのように評価するのか？といった観点から2件のご発表を頂いた後、思考・判断・表現の評価の細分化と情動的な見方・考え方、情報科の授業、ICT活用と学力や指導との関係、新しいテストによる評価などの意見交換が行われました。B会場では、地域における情報科教育・教育の情報化の推進をテーマに、特に、どこの地域・学校でも課題としてあがる情報モラル教育の現状と今後の展開について、最初に話題提供を頂き、その後、「携帯電話・スマートフォン・インターネット・SNSの利用上に関するルールづくり」について激論が交わされました。

第8回全国大会報告

第5回大会では、情報科の教育実践者の参加を促す試みとしてデモンストレーション発表などが行われましたが、今大会では、情報科の教育実践者による授業そのものを対象にした議論の場を設定すべく、その最初の取り組みとして、情報科教育の授業に対する担当者の課題意識を語り合う分科会（F会場）を設定しました。3人の先生の授業に対する考え方や課題意識をご発表頂いた後、情報科に期待されている学びとは、ICTの学校整備、教員の指導力向上についての3つの問題について、フロアからの質問や意見（「『社会と情報』は教えやすいだけに指導内容がバラバラになりがちである」、「標準化や教員の情報共有が必要ではないか」、「教科書どおりの授業が必要ではないか」、「まずは黒板に資料や教材をプロジェクタで映したところにチョークで書き込むといったところからはじめたらどうか」等）を交えた議論が展開されました。



分科会終了後、場所を湯田温泉に移し、懇親会を開催しました。懇親会には、実行委員会側の予想を大きく上回る95名の皆さまにご参加頂きました。山口とえば、「ふぐ」に「瀬祭（日本酒）」ということで、少して恐縮でしたが、その他の郷土料理とともに振舞わせて頂きました。懇親会では、中央の看板に「日本情報教育学会第8回全国大会懇親会」として吊るしてしまう大きなミスをしてしまいました。この場をお借りしまして、改めてお詫び申し上げます。大きなミスの反省をしつつ、懇親会の2時間は、「情報科教育」の「科」の重要性を常に見て考えられる時間ともなりました。

2日目の午前中は、教育の情報化、問題解決、情報科教育の現状と方向性、情報科教育の実践・連携・評価、プログラミング教育、学習デザイン、大学における情報科教育をテーマにした口頭発表が行われました。昼休みをはさんだ午後のはじめには、口頭発表とデモンストレーション発表が行われました。特に、デモンストレーション発表には多くのご参加を頂き、会場内では熱い議論が交わされていました。その後、ポスター発表の7件は、40分という時間が短く感じるほど各ポスターの前で説明と意見交換が行われていました。

大会最後のプログラムは、パネルディスカッション「情報科教育で育成すべき能力、教育内容、学習・指導方法、学習評価」でした。このパネルディスカッションは、大会2日間の論点をまとめるセッションでもあり、また次期学習指導要領へのキックオフとして、今後検討・探究しなければならない情報科教育の課題を各参加者が考え、共有する場として位置づけていました。パネリストには、松田 稔樹 先生、佐藤 万寿美 先生、池田 勇 先生、村松 祐子 様の4名にご登壇頂きました。はじめに、松田先生は、初日の分科会A会場の議論内容も踏まえ、「次期情報科カリキュラムの編成で考慮すべき能力観・教育観・評価観」というタイトルで、背景にある能力観・教育観、能力観と評価観をつなぐ目標体系、問題解決における縦糸（目標設定・代替案発想・合理的判断・最適解導出・合意形成の解決過程）・横糸（収集・処理・まとめ）モデル等についてご発表頂きました。次に、佐藤先生は、分科会F会場の議論内容を踏まえ、「情報科教育の充実と発展を目指して」というタイトルで、生徒目線でみた情報科教育の課題（『情報の科学』の学習内容を生徒の期待にあった内容も教える必要がある等）を提言して頂きました。さらに、池田先生には、分科会B会場の議論テーマ「ルールづくりが意味することとは何か？」という問い



を情報活用能力調査の調査結果を踏まえながら分かりやすくお話頂きました。はじめに、21世紀型の授業が、学習者である児童生徒がさらに主語（主人公）となり、すべての学習者が…に対する協議内容を紹介して頂きました。具体的には、ルールづくりに関して、各家庭の事情もあることからルール作りが難しい事例の紹介や、保護者向けの広報や研修の必要性、作られたルールが守られない理由やルールの改正の重要性などについて意見が交わされたとの報告を頂きました。最後に、村松さまから企業が求めている人材育成について、経団連のグローバル人材育成のアンケート調査から3つの



項目（「産業界が大学卒業時に学生が身に付けていることを期待する素質・能力・知識」「大学に取り組んでほしい教育方法やカリキュラム改革」「初等中等教育に期待する取り組み」）の結果についてご説明頂き、企業（富士通）における人材育成の取り組み方および教育ビジョンについてご紹介頂きました。ご発表の後、指定討論者である岡本会長から「情報科教育と情報教育との違いも含めて情報科教育で育成すべき能力として何が期待されているのか？他の教科にない情報科教育の学力とは何か？」「情報科教育の中学校における教科化や大学入試に組み込むための健全な戦略は何か？」について質問がなされ、パネリストだけでなくフロアも含めて意見が交わされました。このなかで、「課題解決を通して、情報処理を仕組みや原理を理解した上で納得できる、大量のデータを読み取って活かすことができる人材を育成するのが情報科教育の役割ではないか」、「情報が一番上位の問題解決の枠組みであって下位に数学的方法論や科学的方法論などがあってそれらをコントロールして使うような総合的な能力に結び付けていくのが情報科教育として行すべきことではないか」、「どのレベルまでの情報的な見方・考え方を求めるのか」、「コンピュータやネットワークに関する知識・理解についての力をつけるのが情報科の具体的な学力につながる基本的な部分ではないか。その上に情報的な見方・考え方が加わって、問題解決力やネットワークを活用した情報収集・加工・発信といった思考・判断・表現につながっていくのではないか」、「情報という科学的な見方・考え方が身に付いた上での健全な倫理観の育成が必要ではないか」、「白水先生が昨日お話されていた『賢いユーザかつユーザ中心の技術者的な中間層』を育成することも情報科教育のターゲットになるのではないか」、「小中高で問題解決という学習を行っているのに、問題解決を意識して行われてこなかったのではないか。情報を意識することによって、その情報そしてその裏側の仕組みも知りたくなるのではないかと考えると『意識すること』もコンピテンシーの一つになり得るのではないか」などの意見や提案が示されました。

4. おわりに

第8回大会では、「情報科教育で育成すべき能力の再考」という大きなテーマのもと、2日間の議論や情報共有を行なって頂きました。限られた時間のなかでは、十分に課題抽出や共有が行えず、課題解決の見通しが持てるレベルにはほど遠い状況であったかもしれません。それでも、第8回大会での取り組みが契機となって、ご参加頂きました皆さまの研究や実践が1年後の全国大会そして次の大会において成果という名の花で満開になればと願っております。ご多忙のなかご参加頂きました参加者・発表者の皆さま、ご出展頂きました企業の皆さま、大会開催の準備段階におきましてご助言とご支援を頂きました理事会・評議員会・企画委員会の皆さま、またプログラム構成から会場準備に至るまでお力添えを頂きました17名の実行委員会の皆さま、さらに前日の準備から最後の後片付けまで真摯に取り組んで頂いた学生アルバイト15名の皆さまに深くお礼申し上げます。最後に、大会の準備や当日の運営に関しまして、不手際や配慮が行き届かないところがあり、皆さまにご迷惑や嫌な思いをさせてしまったところが多々あったのではないかと思います。何卒、ご容赦頂ければ幸いです。

報告：第5回研究会

日時：2015年10月3日（土） 13:00～17:00

場所：浜松研修交流センター（アクトシティ浜松内）401会議室

<http://www.actcity.jp/sponcer/seminar/>

13:30-13:40 開会の挨拶

13:40-14:40 セッション1

1. 小学校における情報教育モデルカリキュラムの作成～教職員の事例アンケートから～
池田勇（NPO 法人情報教育支援研究会）、西野和典（九州工業大学）
2. コンピューティングの概念に基づいた必修・選択・選択型高等学校「情報科」カリキュラム
夜久竹夫、尾崎知伸（日本大学）後藤隆彰（電気通信大学）穴田浩一（早稲田大学高等学院）
久野靖（筑波大学）小泉カール（尚美学園大学）斎藤実（埼玉県立大宮高等学校）
宮寺庸造（東京学芸大学）
3. 専門科目による共通教科情報科の科目代替の現状～学習指導要領による分析を中心に～
深谷和義（椋山女学園大学）

14:40-14:55 休憩

14:55-15:55 セッション2

4. U 曲線モデルに基づく情報モラルにおける行動指針作成支援システムの提案
近藤啓史（愛知教育大学大学院）梅田恭子（愛知教育大学）
5. canvas 対応版PenFlowchart for JavaScript の開発
中西渉（名古屋高等学校）
6. 大学への連携を考慮した高校情報科における学習指導
高橋参吉（帝塚山学院大学）

15:55-16:00 閉会の挨拶

終了後、情報交換会が行われました。



総会及び活動報告

日本情報科教育学会の総会は、毎年1回、全国大会の第1日目に開催されます。今年は、2015年6月27日（土）、山口大学にて行われました。総会では、前年度の事業報告及び収支決算、今年度の事業計画及び収支予算などについて審議が行われます。

なお、事業報告・事業計画については、次の活動について審議されます。

1) 総会及び役員会

・理事会（年4回）及び評議員会（年2回）の活動

2) 委員会活動

・広報、研究、学会誌編集、教科教育・教員養成、情報学カリキュラム検討、国際関連・交流、全国大会企画・実行、学会賞表彰、ホームページ検討の9委員会の活動

3) 全国大会、フォーラム、研究会などの活動

4) 支部活動

・関東・東北、東海・中部、近畿・北陸、九州・四国・中国の4支部の活動

5) 刊行物

・学会誌、研究会報告書、全国大会論文集、ニューズレターなどの刊行物

今年度の総会の資料は、学会Webページに掲載されていますので、ご確認ください。委員会や支部については、Webページの委員会、支部の箇所に、役員名簿とともに活動の概要が掲載されています。また、学会誌の目次、研究会報告書についても、Webページに掲載されています。

報告：東海中国支部総会・支部研究会

東海・中部支部 梅田恭子（愛知教育大学）

2015年2月1日（日）、名城大学名駅サテライトにおいて、支部総会ならびに研究会を行いました。支部総会では平成26年度の事業報告と決算報告、平成27年度の事業予定と予算案について了解が得られました。その後、講演と4件の研究発表が行われました。どちらも活発な質疑応答があり、その後の懇親会でも意見交換が行われました。

以下はプログラムの内容です。

13:30～ 14:00 東海・中部支部 総会

14:00～ 15:30 講演 「粘り強く・・・、小中学校の学びでの情報活用」

西田文比古 様（NTTラーニングシステムズ株式会社 取締役 教育ICT推進部長）

15:40～ 17:00 発表

(1) 「プロジェクトマッピングを体験する出前授業の試み」

江島徹郎・梅田恭子・齋藤ひとみ・野崎浩成（愛知教育大学）

(2) 「専門学科「情報科」におけるタブレット端末iPad を用いた授業改善」

役 正好（岐阜県立岐阜各務野高等学校）

(3) 「「探求型」の情報教育をめざして

～ 本校での研究授業での取り組みを通して～

加藤和幸（金城学院高等学校）

(4) 「シミュレーション学習を通じた問題解決能力の育成ーセルオートマトンを用いた実習を通して」

磯部純一（愛知県立豊田西高等学校）

17:30～19:30 懇親会



関東・東北支部事務局長 齋藤実（埼玉県立大宮高等学校）

2015年3月7日（土）日本大学文理学部にて第2回関東・東北支部大会ならびに第4回研究会を開催した。支部大会招待講演兼第4回研究会特別講演の後、研究会は2会場で行われ、年度末の多忙の時期にも拘わらず60名の参加があり、活発に研究協議が行われた。

分刻みのスケジュールの合間を縫って、快諾頂いた坂村健氏の講演は、日本の情報教育の方向性を示す素晴らしいものであった。

なお、終了後での懇親会では多くの会員による情報交換が行われ有意義であった。

関東・東北支部の役員・評議員及びプログラムは以下の通りである。

関東・東北支部 2015年度～2016年度 役員・評議員

役員

理事	夜久 竹夫（日本大学）	: 支部長
	上杉 茂樹（仙台市立仙台青陵中等教育学校）	: 副支部長
	宮寺 庸造（東京学芸大学）	: 副支部長
	齋藤 実（埼玉県立大宮高等学校）	: 事務局長
	穴田 浩一（早稲田大学高等学院）	: 会計
	尾崎 知伸（日本大学）	: 事務幹事
	後藤 隆彰（流通経済大学）	: 事務幹事
	春日井 優（埼玉県立川越南高等学校）	
	田崎 丈晴（千代田区立九段中等教育学校）	
	谷川 佳隆（千葉県立船橋芝山高等学校）	

監事 中里 竹男（坂戸市立桜中学校）
天良 和男（東京学芸大学）

顧問 岡本 敏雄（京都情報大学院大学）

評議員	岡田 工（東海大学）	中村 直人（千葉工業大学）
	小原 格（東京都立町田高等学校）	中村 正夫（日本大学豊山女子高等学校）
	笈 捷彦（早稲田大学）	萩谷 昌巳（東京大学）
	加藤 尚吾（東京女子大学）	本田 敏明（茨城大学）
	神藤 健朗（東京都市大学付属高校）	松田 稔樹（東京工業大学）
	北澤 武（東京学芸大学）	森本 康彦（東京学芸大学）
	久野 靖（筑波大学）	守屋 悦朗（早稲田大学）
	小泉 力一（尚美学園大学）	横田 健（日本大学）
	坂田 圭司（東海大学）	渡辺 治（東京工業大学）
	土田 賢省（東洋大学）	

【プログラム】

13:00～13:50 支部総会 於：第2会議室

議事（13:00～13:50）

- (1) 2014年度活動報告
- (2) 2014年度決算
- (3) 2015年度 活動計画
- (4) 2015年度 予算案
- (5) 細則改正報告
- (6) 2015 年度役員改選



14:00～14:50 第2回支部大会招待講演・第4回研究会特別講演 於：国際会議場

坂村 健 氏（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）
演題 「イノベーションを起こすための情報教育」

15:00～17:30 第4回研究会 於：国際会議場、第2会議室

発表時間25分（発表17分、質疑応答協議8分）

第1会場（15:00～17:30）

- (1) プログラミング教育への舵取り
山下 裕司（山口県立岩国高等学校）
- (2) 新旧学習指導要領での愛知県立高等学校における専門教科情報科の実施状況
深谷 和義（椙山女学園大学）
- (3) 情報科学教育の早期実施に関する考察と実践 - 小学生は有限オートマトン問題を解けるか -
伊佐山 大揮（群馬大学）、山崎 浩一（群馬大学）
- (4) アクティブラーニングの実践事例 - 情報倫理教育への取り組みと課題 -
荒巻 恵子（帝京大学）
- (5) グループワークでの情報モラル教育の実践例
谷川 佳隆（千葉県立八千代東高等学校）

第2会場（15:00～16:50）

- (1) 語彙学習用WBT教材に求められる機能 - フリーオンラインプログラムについての分析と実践 -
山本 五郎（広島大学）
- (2) コンセプトマップを用いた誤差に関する主要な授業要素の抽出
兵頭 英（愛媛大学）、河村 泰之（愛媛大学）、白濱 弘幸（愛媛大学）
- (3) 管理栄養士養成における情報教育の授業実践と評価
岡本 尚志（聖徳大学）
- (4) 「ネットオークションゲーム」を題材とした情報科用教材設計フレームワークの「良さ」の検討
小川 諒大（東京工業大学）、松田 稔樹（東京工業大学）、
近藤 千香（東京工業大学附属科学技術高等学校）

17:45～19:15 懇親会 於：日本大学文理学部内食堂

報告：九州・四国・中国支部総会・支部研究会

九州・四国・中国支部事務局 池田勇（NPO法人情報教育支援研究会）

2015年3月14日に総会を行い、新たな理事・評議員や年度計画等が決まりました。

その後、九州ICT教育支援研究会との共催で研究会を実施し、59名の参加者となり、論文発表はじめワークショップで活発な意見交換等が行われました。懇親会には25名が参加し、美味しい地元料理を囲み、さらに情報交換が続きました。会場を提供頂いた宮崎公立大学、準備等の支援を頂いた共催の九州ICT教育支援研究会に感謝申し上げます。

以下プログラム等の内容です。

九州・四国・中国支部第8回研究会

共催：九州ICT教育支援協議会

日時：2015年3月14日(土)13時～

場所：宮崎公立大学交流センター

【研究会】プログラム 「小・中・高 それぞれのICT活用の未来」

13：00 開会挨拶 九州ICT教育支援協議会会長 桑崎 剛

13：10 論文発表等

・山下裕司（山口県立岩国高等学校）

「プログラミング教育への舵取り」

・池田勇（嘉麻市教育センター）

「小中学校の教職員と新たなる授業づくりへ」

・全国大会等の案内

13：50 事例等の発表

14：45 ワークショップ

「小・中・高それぞれのICT活用の未来」

16：20 閉会挨拶

九州・四国・中国支部長 西野和典

16：30 閉会

【懇親会】18：00～20：00



報告：近畿北陸支部総会・支部研究会

近畿・北陸支部副支部長 稲川 孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）

2015年3月21日(土)、大阪芸術大学スカイキャンパス（あべのハルカス）において、支部総会ならびに研究会を行いました。支部総会では平成26年度の事業報告と決算報告、平成27年度の事業予定と予算案について了解が得られました。年度末の忙しい中25名が参加され、4件の発表とラウンドテーブル・ディスカッションでは、活発な意見の交換が行われました。また、その後の懇親会でも話が盛り上がりました。

報告：近畿・北陸支部総会・支部研究会

以下はプログラムの内容です。

13:30～14:00 近畿・北陸支部 総会

14:00～16:00 発表 司会 稲川 孝司（大阪府立東百舌鳥高等学校）

①村田 紗基（帝塚山学院大学大学院生）

ソーシャルメディアを考慮した小冊子「スマホと情報モラル」の作成

②玉田 知之（大阪府立長吉高等学校）

レゴブロックとiPadを使った表現活動

③勝田 浩次（大阪府立東百舌鳥高等学校）

21世紀型スキルの教育を目指した情報の授業

④追田 和哉（大阪府立堺東高等学校）

教科情報における生徒選択制の実施報告

16:00～16:45 ラウンドテーブル・ディスカッション

司会 高橋 参吉（帝塚山学院大学）

テーマ 次期学習指導要領の改訂に向けて

報告者：佐藤 万寿美（兵庫県立川西緑台高等学校）

教育課程上の課題、生徒選択制等について

行事予定

今年度の行事は以下が予定されています。あくまで予定ですので、最新情報はWeb等でご確認ください。

*第8回フォーラム

2015年12月23日(水) 13:30- 場所：東海大学高輪キャンパス 4号館2階4202教室

テーマ：次期学習指導要領と情報科教育

講演：「次期学習指導要領の改訂動向について（仮）」鹿野利春氏

このほか、パネルディスカッションも開催されます。

参加費無料

*近畿・北陸支部

2016年3月5日(土) 大阪芸術大学阿倍野ハルカスキャンパス（大阪府大阪市）予定

*関東・東北支部

2016年3月21日（月・祝） 場所・未定

事務局からの連絡

- ・所属等の変更のある方は、至急、ご連絡ください。
- ・2015年度および2015年度以前の会費未納の方は、会費の納入をお願いします。年会費が未納の場合、学会誌に投稿できない、学会誌が送られない、また、全国大会や研究会（研究委員会主催）での発表ができないなどの措置がとられます。

金額等については、下記でご確認ください。

<http://jaeis.org/nyukai/>

会費振込口座

【金融機関名】 ゆうちょ銀行

【口座種別】 振替口座

【口座番号】 00190-1-317944

【加入者名】 日本情報科教育学会（ニホンジョウホウカキョウイクガッカイ）

【金融機関名】 三井住友銀行 高田馬場支店(273)

【口座種別】 普通預金口座

【口座番号】 4435574

【口座名義】 日本情報科教育学会（ニホンジョウホウカキョウイクガッカイ）

※ 振り込み手数料につきましては大変恐縮ではございますが、各自ご負担戴きます様お願い申し上げます

【第9回全国大会について】

下記の日程、場所で開催予定です。

日程：2016年6月25日（土）～26日（日）

場所：刈谷市産業振興センター

〒448-0027 刈谷市相生町1丁目1番地6

<https://www.city.kariya.lg.jp/shisetsu/sangyokeizai/sangyokoshinsenta/>

日本情報科教育学会ニュースレター No. 21 2015年12月15日

発行所 日本情報科教育学会事務局 <http://jaeis.org/>

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-14-2（新陽ビル7階）

TEL：03-5155-7576 FAX：03-5155-7578 E-mail jaeis-jimu@jaeis.org

発行責任者 広報委員会

委員長：西端律子（畿央大学） 副委員長：森本康彦（東京学芸大学）

委員：池田勇（NPO法人情報教育支援研究会）、鷹岡亮（山口大学）、竹中章勝（畿央大学）、中西涉（名古屋高等学校）、布施泉（北海道大学）